

平成20年度予算案について

(平成20年2月7日：市長記者会見)

平成20年度の各会計予算案がまとまりましたので、その概要についてご説明申し上げます。



平成20年度は、私にとりましては、2期目最初の全体予算となりますが、昭和33年7月1日の市制施行から50周年となる節目の年であり、

「北海道洞爺湖サミット」の公式プログラムである「ジュニア・エイト・サミット2008千歳支笏湖」が開催されます。

平成20年度予算につきましては、この機会に、国内外からの多くのお客様を、市民とともに心から歓迎し、さまざまな交流を図りながら、「ふるさと千歳」を世界に発信し、思い出深い有意義な国際イベントや、市制施行50周年記念事業、子育て総合支援センター「ちとせっこセンター」のオープンなどの予算を盛り込み、「市民とともに半世紀、次代につなぐ ちとせっこ予算」として、取りまとめたところであります。

一方、現在の少子高齢化・人口減少社会や、環境問題、後期高齢者など医療制度改革などの対応をはじめ、当市におきましては、自衛隊削減問題や在日米軍再編に係る対応、さらに、救急医療体制の確保など喫緊の課題が山積しており、これらに係る政策課題にも応えていく予算としております。

今回の予算の基本的な考えであります。本格的な地方分権の時代に向け、これまでの行財政構造改革を着実に推進し、自主・自立の行政運営と安定した財政基盤の構築を図りながら、当市が有する「特性・優位性・可能性」を踏まえた個性あるまちづくりを目標としております。

この実施にあたっては、市民の方々に「マニフェスト」としてお約束しました「76項目の公約」の実施に向けた政策を中心に、「安心」と「活力」の2つを

柱に、「市民力とまちの特性を生かし、幸せを実感できるまち」の実現に向けて、新長期総合計画の着実な推進、平成20年度からの重点施策の取り組みとして、新たに「環境」を加えた6項目に対する重点配分などメリハリある予算として編成いたしました。

これらの実施に伴い76項目の公約のうち、平成20年度予算では、50項目の事業を盛り込み、予算を直接伴わないものが13項目、合わせて63項目に取り組むこととしております。

なお、これに今年度終了する8項目を加えますと、71項目となり、残り5事業のうち、20年度予定としている「地域密着型介護サービス事業」と「スポーツセンターのリニューアル事業」は、現在、内部的な検討を進めており、3事業につきましてはマニフェストで、平成21年度以降を予定している事業であります。

また、平成20年度から3か年として、取り組みます重点施策につきましては、予算総額では11億5千万円を計上したところであります。

この結果、一般会計総額では、468億7,058万5千円となり、前年度予算と比べ、2億9,820万円、0.6パーセントの減となっております。

また、特別会計では7会計の総額で125億8,759万7千円となり、前年度予算と比べ58億6,031万3千円、31.8パーセントの減となりました。

一般会計を含めた8会計の総額では、594億5,818万2千円となり、前年度予算と比べ61億5,851万3千円、9.4パーセントの減となり、これに公営企業会計を加え、総体で740億1,353万円の規模として取りまとめたとところであります。

この予算案につきましては、3月3日に開会予定の第1回定例市議会に提案してまいります。

平成20年2月7日

千歳市長 山口 幸太郎